

モンゴル唯一の歯学部と提携



本学は2005年8月、モンゴルの首都ウランバートルで、国立モンゴル健康科学大学（旧モンゴル国立医科大学）と姉妹校の提携をした。同大学の歯学部は1961年に設立され、モンゴル唯一の歯学部である。

モンゴルは以前は社会主義国だったので、同歯学部の人材は東ドイツかキューバに留学していた。民主化されてから、一斉に日本やアメリカの先進国に学んだ。その先頭に立ったのが、前年に歯学部長に就いた37歳のDr. B. アマルサイハンであった。同国の時代の変わり目であったので、新旧勢力の険しいせめぎあいが読みとれた。

モンゴルの人々は、ジンギスハーンの末裔という誇り高い民族である。同国の発展はめざましく、私が2度目にウランバートル空港に下り立った時、2年前とは違う空港に着いたかと錯覚したほど、近代的な空港に一新されていた。

私、影山幾男教授、石川富士郎客員教授、中原

リザ子教授等は、モンゴル大学・日本歯科大学人類学共同研究プロジェクトを結成して、日本人のルーツといわれるモンゴル民族との歯顎顔面の人類学的比較を試みた。私たちは、(株)モリタの協力をえて、セファロ・オルソパントモグラフィー式を空輸し、ようやく同歯学部病院に設置した。同装置を稼働する日、同大学の学長はじめ医学部・歯学部の教授が入れかわり立ちかわり見学にみえた。

姉妹校調印の日、アマルがソワソワと幾度も携帯電話を交わしていた。彼の奥方が出産間近という。私は、「奥さんのところへ行ってあげなさいよ」と茶化した。帰国間際、ぶじ女の子が産まれたと聞いた。そのときのアマルの、テレくさそうな嬉し顔を忘れない。

(写真・歯学部内で調印式。左は挨拶するアマルサイハン歯学部長、P.ナラントヤ副学長)